

アシュラス Ahsuras 次世代コマセダイロッド 最終テスト釣行レポート

●軽快な操作性と感度、そして大ダイを引き上げるパワーを追求した、アシュラス独自の新素材をブランクスに搭載した次世代コマセダイロッドを携え、アシュラスのテスター陣が

相模湾のマダイに挑む。

★コマセダイの名手・杉山さんが落とし込みの誘いで食わせた一枚



▲魚が突っ込むと引きを追随するように曲がり込む

冬の相模湾は深場で大ダイの期待が高まるシーズン。アシュラスのフィールドテスター・杉山純一郎、そしてアシュラス釣りガールの早川菜々子、菊地みさと、アシュラスユーザーの田口淳たちが、最新コマセダイロッド「ムーチングウイザード」発売前の最終テスト釣行に選んだフィールドは相模湾真鶴沖。

当地は11月上旬ごろから模様が上向き、いい日は2〜5キロ級が上がるなど大ダイの気配は十分。

テストメンバーは福浦港のよしひさ丸に乗り込み5時半に出船。ほどなく真鶴沖の水深60メートル付近に到着し、海面からの指示ダナ45メートルでスタート。しかしこの場所はパツとせず、水深70メートルのポイントへ移動となる。

ここでは1投目から杉山さん、菜々子ちゃんにアタリがきてキントキが上がる。続いて田口さんの竿が大きな弧を描き、慎重に巻き上げ1キロ級のマダイをキャッチ。

しかし後続がなく、水深80メートルへ移動。そして62メートルの指示ダナで再開した10分後、杉山さんが掛けた。鋭い突っ込みを竿のためでいなし、余裕のヤリトリで1キロオーバーのマダイを取り込む。

「ハリの色を替えたら一発で食いました！」

杉山さんの仕掛けはハリス6号4メートルと4号6メートルを小型スイベルで接続したテーパー式。ハリはアシュラス「真鯛」バリの万能カラー・オキアミステルス。でスタートしたが、アタリが遠かったためアピールカラーの、赤にチェンジ。コマセを振って指示ダナの3メートル上に合わせ、ゆっくり竿を下げてタナまで落とし込んだところでヒットしたとのこと。

その後は水深60〜90メートル前後を転々と攻め、みさとちゃんがメイチダイを釣り上げる。杉山さんはサイズアップを狙って誘いや仕掛けを替えるなど手を尽くしたが、結果に結びつかず11時に沖揚がりを迎えた。

「いい反応が出ている流しが何度かありましたが、潮具合が今イチで食い渋りました」と高橋勝久船長は残念がったが、相模湾の冬のダイ狙いは年明けの1〜2月が絶好期。これまでの実績から今シーズンも大ダイが上がることだろう。

新素材がもたらす 軽快な操作性と高感度

4人に最新ロッドの感想を聞いてみた。

「S27を使いましたが、コマセワークや誘いが軽快で、2・47メートルの長さを感じさせない竿です。伝達率の高い新素材な様子。」



▲コマセワークも軽快



▲田口さんはコマセダイ2回目でも期待の本命ゲット

「コマセワークが軽快、持ち重りをまったく感じないので一日手持ちで楽しめました。今日はマダイにはふられちゃいました」とこの竿で再チャレンジします」と最新ロッドを気に入った様子。

そしてM256を使用した田口さんは、

「普段はルアー釣りがメインで、コマセダイは2回目でしたが本命が釣れてうれしいです。長くても軟らかいコマセダイロッドは釣っていて楽しいのでハマリそうです」とのこと。

アシュラスの最新コマセダイロッドの詳細は158ページをご覧ください。

Ahsuras Mooring Wizard Report